

巻頭言



(一財)自治体国際化協会 会長 京都府知事 山田 啓二

JET プログラム 30 周年を迎え、 さらなる地域の国際化に向けて

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、謹んでお喜び申し上げます。

私ども（一財）自治体国際化協会は、1987年のJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）開始の翌年に設立されて以来、関係省庁とともに同事業の推進に努めてまいりました。

今年は、そのJETプログラム開始から30周年となる節目の年です。この30年間で、グローバル化が著しく進展し、地方自治体を取り巻く状況も大きく変化しましたが、JETプログラムでは一貫して日本と外国の架け橋となる外国人青年を迎えてきました。4か国から848人を招致して始まった参加者数は、累計で65か国6万2,000人を超え、赴任した学校や地方自治体での業務を行うばかりでなく、地域住民の一員としてさまざまなコミュニティ活動を担ったり、帰国後も母国で日本文化の魅力を伝えたりするなど、草の根の国際交流の推進に大きく貢献してきました。

特に2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催や、小学校における英語教育の早期化の動きを踏まえ、「日本再興戦略（改訂2014）」の中でJET-ALT（外国語指導助手）の配置数を過去最高となる6,400人に増加させることが目標とされるなど、JETプログラムに期待される社会的役割もますます大きくなっております。

当協会では本年、今後の外国語教育のさらなる充実と、地域における国際交流の深化のため、30周年記念式典をはじめとしたさまざまな事業を行いながら、JETプログラムのさらなる発展に向けた機運を醸成してまいります。

また、近年の訪日外国人観光客数の大幅な増加に伴い、観光消費の拡大や地元産品の海外への販路拡大が各地方自治体における大きなテーマとなる中、当協会といたしましても、国内外のネットワークを活かしながら、自治体の海外プロモーションのサポートに取り組んでまいりたいと考えております。

今後もJETプログラムをはじめとした、あらゆる分野における地域の国際化の総合的なサポート役として、地方自治体、地域国際化協会などの関係者の皆様との連携を深めながら、各種の取り組みを進めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の今年一年のますますのご健勝とご多幸をお祈りいたします。